

5 公共交通を取り巻く課題

■ 柏市の地域特性や公共交通の現況概要

【地域特性】

- 本市の人口は、今後 10 年は増加することが見込まれています。
- 高齢化率は上昇傾向であり、今後、高齢化の進展はさらに進むことが予測されています。

【交通特性】

- 東京都への流出、周辺都市からの流入が多くなっています。
- 東部地域においては、他の地区に比べ自動車分担率（約 50%）が高くなっています。

【公共交通の現状】

- 柏駅に結節するバス路線の運行本数は多くなっていますが、南部及び東部においては、片方向 15 本/日程度の区域が多く、路線密度も低くなっています。
- 運転士不足のため、一部の路線では減便等が見受けられます。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により公共交通の利用者数が減少しましたが、現在は回復傾向にあります。カシワニクルは、新型コロナウイルス感染症流行前よりも利用者は増加しています。
- コミュニティ交通に対する市財政負担額は増加傾向となっています。
- 都市計画道路の整備の遅れと道路混雑により、バスの定時性が低下しています。
- 市内の一部の駅においては駅前広場が未整備です。
- 企業・病院等による施設送迎のための企業バスが多く運行されています。
- 一部の町会では、地域が主体となって買い物支援タクシーを導入しています。

■ 地域住民等のニーズ

【市民アンケート調査】

- 公共交通の利用目的が非日常の買い物での利用割合が増えており、利用実態に即した公共交通の整備に際しては考慮が必要となっています。
- 路線バスについては、東部地域においては「満足」・「やや満足」の割合が減少し、「運行本数・頻度」「終発時間」「運行時間の正確性」において「やや不満」・「不満」の割合が増加しています。
- 地域住民主体のコミュニティ交通については、「今は自分で運転できるのであまり困っていないが、今後自分では行けなくなった際には利用したい」との意見が多く、高齢者や免許返納者のための移動手段の確保が期待されています。

【意見交換会】（地域住民の意見）

- 買い物や通院の移動に困っており、特に買い物の帰りは荷物があり大変。
- 公共交通だけでなく、企業送迎車両の活用等も考えられるのではないか。
- 地域が主体的に取り組む機運を高めるとともに、単独の町内会だけでなく、周辺町会との連携も重要。一方で、交通事故や運賃等の事務処理等の課題もある。

■ 上位・関連計画における公共交通の位置付け

【柏市経営戦略方針】

- 新設道路や移動需要を踏まえたバス路線の見直し、公共交通空白不便地域における移動困難者に対する適切な移動手段の検討について記載されています。

【柏市都市計画マスタープラン】

- 交通体系としては拠点間のアクセス性向上による、利便性の高い公共交通の形成・充実に取り組むことが示されています。

【柏市立地適正化計画】

- 拠点間や拠点までのアクセスを円滑にする等、自動車移動に頼らない公共交通の充実化を図る視点の必要性を示しています。
- 特に、バスは公共交通軸・交流交通・フィーダー系統の 3 つに分類し、それぞれの機能に応じたバス路線の役割を明確化し、ネットワークの方針を定めています。

【第二次柏市総合交通計画】

- 柏市都市計画マスタープランにおける都市づくりの目標の実現を目指し、基本理念を『くらし・まち・人の活動をささえ、未来へつづく交通を実現』とし、公共交通に関する実現化施策を位置付けています。

■ 地域公共交通網形成計画の評価

- 新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が減少したことから、達成できなかった施策が見られます。
- 目標値の見直しを含め、短期施策の継続や見直し及び中・長期施策を検討していく必要があります。

【交通事業者ヒアリング】

【バス事業者】

- 新型コロナウイルス感染症の影響や生産人口の減少により利用者が大きく減少しています。
- 運転士の不足が深刻の中、運転者の労働環境基準の改正によりさらに拍車がかかり、現行サービスの確保が困難となっています。

【タクシー事業】

- 新型コロナウイルスの影響により、一時利用者数は落ち込んだが戻りつつあります。
- アプリの導入により、若年層の利用が増加しています。
- 運転士不足が深刻な問題となっています。

【企業アンケート調査】

- 企業バスへの一般市民の混乗への意向については低い回答となっています。（混乗出来る余裕がない、需要対応の運行）
- 市民からの苦情等もあり、混乗を取りやめた企業もあります。

■ 全国的な公共交通を取り巻く社会潮流

- ①人口減少、少子高齢化の進展
- ②地域活性化法の改正
- ③運転士不足（なり手不足）が、運転士の高齢化に加え、令和 6 年「改善基準告示」の改正により、さらに深刻化
- ④新型コロナウイルス感染症を発端とするライフスタイルの変化
- ⑤行財政における扶助費増加による厳しい財政運営
- ⑥自動運転、AI 等の先進技術の進展
- ⑦環境問題、SDGs への対応

■ 公共交通を取り巻く課題

- ①地域の移動需要の減少による公共交通の採算性の低下
- ②移動手段を持たない高齢者等の交通弱者の日常の足の確保
- ③中心市街地の混雑緩和・路線バスの定時性の確保
- ④運転士不足等による運行サービス低下、路線再編による運行効率の向上への取り組み
- ⑤公共交通空白地域等における需要に応じた地域との協働による取り組みの推進
- ⑥わかりやすい乗換え情報の提供や交通結節点における待合環境の改善
- ⑦ICT・DX 等の新しい技術の検討・実証実験の実施
- ⑧公共交通への転換・利用促進